

生徒が自宅で予習 ⇨ 授業で復習や応用問題に挑戦

反転授業

松本秀峰中等教育学校理科教員が導入

意欲向上や学力定着目指す

生徒が自宅で予習し、学校の授業で復習や応用問題に取り組み「反転授業」を、私立松本秀峰中等教育学校(松本市埋橋)の理科教員が取り入れている。これまでの教員講義型ではなく、基礎知識を身に付けた生徒同士が討論などして学び合う授業で、生徒の意欲向上や学力定着につなげたいという。県内では珍しい試みで、どのような効果があるか関心を集めている。

3日昼下がり、松本秀峰中等教育学校。3年1組39人が4、5時限目に、ホワイトボードにマジックで図や数式を書きながら、活発に議論していた。理科の瀬川伸教諭(37)による生物の反転授業だ。自宅学習などで事前に身に



生物の反転授業で班ごとに討論する松本秀峰中等教育学校の3年生＝3日、松本市

教育

金 肝臓を銀行に例え「お金(糖)が減ると、銀行(肝臓)がグルコースを出し血糖値を上げる」と説明。他の生徒が「分かりやすい」と太鼓判を押しした。授業中、瀬川教諭は歩いて見回りながら、議論が詰まる班に助言。「しつかりメモを取ろうと呼びかける以外は、全体に向けて講義することはなかった。

瀬川教諭は2010年度の開校時から松本秀峰中等教育学校に勤める。昨年、海外研修で訪れた英国の中等教育学校で、生徒の活発な意見交換で授業が進む様子に衝撃を受けた。「生徒が受動的な従来の講義型から、能動的な授業に転換したい」と国内外の教育法を調べ、今年10月から3年生の生物に取り入れたのが

◆ アクティブ・ラーニング 教員による一方向的な講義形式でなく、児童生徒が課題解決に向け主体的・協動的に取り組む学習。体験学習やグループ討論、ディベートなどが含まれる。下村博文・文部科学大臣が今年11月に中央教育審議会に諮問した学習指導要領の改定案では、個々の潜在的な力を引き出すことでより良い社会を築くため、学びの質を重視し、アクティブ・ラーニングの充実が必要だと掲げ、具体的な在り方と学習成果の把握方法を検討するよう求めた。中教審は2016年度中に改定内容を答申する方針で、改定後の学習指導要領の全面実施は小学校が20年度、中学校は21年度、高校は22年度以降になる予定。

生徒側「知識が深まる」「自分のペースで学べる」

反転授業だった。反転授業は、授業で新しい知識を教え、宿題で復習させる一般的なやり方を逆転。生徒は授業前に、教員が基礎知識を教える動画を自宅のパソコンなどで視聴し、授業では生徒間の討論や個々の習熟度に応じた指導で知識を深める。瀬川教諭は自宅学習用に約10分の動画を撮影し、授業前に生徒の各家庭や学校のパソコンに配信。学校での授業は、生徒が積極的に発言するよう、グループごとの討論形式を中心とした。

授業を受ける水橋大瑤君(15)は「配信映像は必要ないところは飛ばせるし、気になる部分は繰り返し見られる。自分のペースで学べて良い。神沢結菜さん(15)は「新しい授業は、他の生徒に教えることで知識が深まるし、勘違いして覚えたところを指摘してもらえて助かる」と話す。瀬川教諭は「仲間間で学び合う輪に入れるよう積極的に勉強したり、コミュニケーションを

取ったりする生徒が増えた」と手応えを感じている。反転授業は情報通信技術(ICT)教育の発展に伴い、2000年代から米国の高校や大学で拡大。国内では、本年度から佐賀県武雄市が全国に先駆けて市内全11小学校で導入するなど、徐々に浸透し始めている。ただ、武雄市教委は、学力向上などの効果につながるかは「今後分析しないとまだ分からない。瀬川教諭も「まずは授業を楽しみたいと思える気持ちを醸成させたい。学力面の成果は定期テストの結果などでこれからみていく」とする。長野県教委指導課によると、県内の公立学校で反転授業を導入した例は「聞いたことがない」という。国レベルでは今後、瀬川教諭が試みているような、児童生徒が授業で協働し主体的に探究する「アクティブ・ラーニング」が学習指導要領改定で盛り込まれる可能性がある。教学指導課は「教員自らが教えるのではなく、見守るように考え方を切り替えるには時間がかかるだろう」と話す。既に「アクティブ・ラーニング」を始めた県内教員もいるとみられ、同課は「情報共有できる仕掛けを考えたい」としている。

あした
はぐくむ

水曜日に掲載